

梁啓超と ジャーナリズム

陳立新 (上海杉達大学人文学院副院長) 著

A5判上製本 384頁 定価 (本体 5,700円+税) ISBN978-4-8295-0452-9



孫文以上に存在感のある知識人として近年注目されている
梁啓超のジャーナリズム活動の意義を
中国語、日本語、英語の文献・資料を徹底的に渉獵して分析!

清朝末から中華民国の時代に活躍したジャーナリスト・政治家・社会運動家として著名な梁啓超^{りやうけいちょう} (1873~1929) は、戊戌の政変で日本に亡命し、14年間にわたって日本を拠点に独自のジャーナリズム活動を展開し、自らの理想実現のため、康有為とともに「変法自強運動」を提唱した人物。

【主な内容】

日本亡命のジャーナリスト梁啓超を発掘—序文に代えて (田村紀雄)
緒論 (いまなぜ梁啓超なのか? / J・レベンソンの見落とし / 梁は思想家なのか?)

第一部 梁啓超の初期ジャーナリズム活動
第一章 日清戦争までの清朝帝国の新聞事業概観 (近代中国語新聞の濫觴 / 中国語近代新聞の二大拠点、香港・上海)

第二章 維新派政論紙発行の契機 (強学会とその機関紙の発行 / 『時務報』の成功 / 日系中国語紙の発行と維新派 / 変法運動の失敗)

第二部 梁啓超ジャーナリズム活動の最盛期

第一章 梁啓超の日本亡命直後の「受け皿」 (日清両国の新聞事情の相違 / 日本主要新聞の対清論 / 亡命直後の梁啓超周囲の日本人 / 何故梁啓超が日本に残り、康有為が日本から退去させられたのか)

第二章 『清議報』の三年間 (『清議報』創刊と『戊戌政變記』 / 『清議報』と日本の政治小説 / 宗旨及び編集方針の変化 / 支那か中国か / 「清議報」百冊祝辞並論報館之責任及本館之経歴) と松本君平の『新聞学』 / 『清議報』の火災と廃刊について

第三章 絶望より言論再起 (『新民叢報』の誕生 / 『新小説』の創刊と『新中国未来記』 / 「新民説」に表れる訪米後のイデオロギック的变化 / 『民報』との論戦 / 楊度との合作—主動的に出撃)

第四章 日露戦争後の予備立憲 (短命の『政論』 / 政聞社の創設 / 『国風報』)

第三部 ジャーナリズム活動の終焉に向かって

第一章 政党政治のジャーナリズム (『庸言』の言論活動 / 宋教仁の暗殺 / 共和立憲への選択の混迷)

第二章 外交立国ジャーナリズム (『大中華』における政界離脱宣言 / 排日言論 / 袁世凱帝政に反対する護国戦争 / 梁啓超訪欧と五四運動)

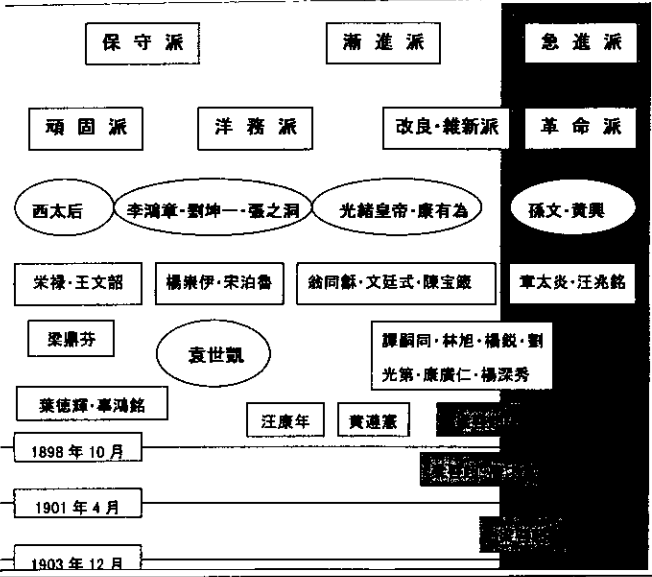
第三章 『改造』誌における文化主義への回帰 (講学社と新文化運動 / 梁啓超と社会主義論戦 / 梁啓超と「玄学科学論戦」)

【補遺1】梁啓超の評価問題について
【補遺2】梁啓超の目録学思想について
参考文献リスト (中国語文献、日本語文献、英語文献、博士学位論文)
附録 梁啓超年譜

著者 陳立新

1966年9月上海崇明島生まれ。上海音楽学院を卒業後、1994年3月より日本留学、2005年3月東京経済大学大学院コミュニケーション学博士課程満期修了、博士号を取得。同年4月帰国。現在は、上海杉達大学人文学院副院長、助教授、中国致公党浦東新区張江支部メンバー、中国人民政治協商会議上海市浦東新区委員会委員。研究業績に「梁啓超と在日日期の文筆活動」(共著)『コミュニケーション科学』第20号 (2004年3月)、「梁啓超の目録学思想について—分類における虚実関係の変遷に関する考察—」『日本情報ディレクトリ学会誌』Vol. 2 (2004年3月)、「梁啓超の評価問題について」『コミュニケーション科学』第21号 (2004年12月)、「梁啓超の日本亡命直後の『受け皿』」(共著)『人文自然科学論集』No.118 (2004年12月)、「中日近代語彙伝播の辺縁中心化」『時代文学』(2009年2月) などがある。

図6 梁啓超と中国政治勢力との関係



芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版

梁啓超とジャーナリズム

部

5月新刊 本体 5,700円